創造農村フォーラム in 篠山

日本公共政策学会　学生政策コンペ
報告書

平成 24 年 10 月 27 日（土）
篠山市民センター

目　次

1.創造農村フォーラム in 篠山の概要……1

2.日本公共政策学会　学生政策コンペ
(1)開催概要 ……3
(2)発表タイムテーブル・(3)審査結果……4
(4)記念講演 ……5
(5)開催状況の写真……13

3.資料
(1)広報物……17
(2)プログラム……19
(3)新聞記事……20

１．創造農村フォーラム in 篠山の概要

10月末の土日を挟んだ３日間、「創造農村フォーラム in 篠山」が、兵庫県篠山市にて開催された。学生による公共政策の発表の場となる「日本公共政策学会　学生政策コンペ」、丹波地域をフィールドに研究活動を展開する４大学による「丹波地域大学連携フォーラム in 篠山」、創造的な取り組みにより地域再生を行う自治体・団体関係者をパネリストに招いた「創造農村ワークショップ」、国内における創造都市のネットワークの立ち上げを目指す自治体関係者が集う「創造都市ネットワーク日本 CCNJ（仮称）」。これら４つのフォーラム、シンポジウムを同一会場にて行い、各フォーラム関係者間での交流も行われた。

期間中、会場内オープンスペースにて開催されたマルシェやパネル展示では一般市民の方の姿が、また市内の古民家再生によってオープンした宿泊施設や店舗を巡る「篠山クリエイティブ農村ツアー」にはオーナーの話を熱心に聴き入る全国各地からの参加者の姿が見られた。

日本公共政策学会　学生政策コンペ

日　時：平成24年10月27日（土）10:00～17:15
主　催：公共政策フォーラム2012 in 篠山実行委員会
（篠山市／日本公共政策学会／一般社団法人ノオト／NPO法人都市文化創造機構／神戸大学）

丹波地域大学連携フォーラム in 篠山

日　時：平成24年10月28日（日）10:00～12:00
主　催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会
（兵庫県丹波県民局／篠山市／丹波市／関西大学／関西学院大学／兵庫県立大学／神戸大学）

第２回創造農村ワークショップ

日　時：平成24年10月28日（日）13:00～17:30
主　催：篠山市／一般社団法人ノオト／日本公共政策学会

「創造都市ネットワーク日本CCNJ（仮称）」第２回発起団体会議

日　時：平成24年10月29日（月）／10:00～12:00
主　催： NPO法人都市文化創造機構

創造農村マルシェ

日　時：平成24年10月27日（土）28日（日）29日（月）／10:00～17:30
主　催：一般社団法人ノオト

創造農村企画展時ブース

日　時：平成24年10月27日（土）28日（日）29日（月）／10:00～17:30
主　催：一般社団法人ノオト

篠山クリエイティブ農村ツアー

日　時：平成24年10月28日（日）／10:00～12:30　　29日（月）／12:30～15:30
主　催：一般社団法人ノオト

協　賛：株式会社ぐるなび
後　援：文化庁／兵庫県丹波県民局／神戸新聞社／産經新聞社／朝日新聞社神戸総局／読売新聞社豊岡支局／毎日新聞社神戸支局／丹波新聞社

２．日本公共政策学会 学生政策コンペ

(1)開催概要

「地域の再生～創造的なまちづくりと農村・地方都市の可能性」というテーマのもと、農村・地方都市における地域の再生に向けた創造的なまちづくりを展開していくための公共政策について、学生チームから具体的な提案がなされた。

また静岡文化芸術大学・片山泰輔教授の「創造性を活かす環境と公共政策」と題した記念講演では、創造性の観点から町づくりと公共政策についてどうあるべきかをお話しいただいた。そこで『創造都市には古い建物や遺産が残っており、そこから創造的刺激を受けた、多様な人々が登場する。そして他地域や異分野の活動を知ることで新しいものを生み出す下地ができる。』と述べられている。また「創造性と行政」というテーマでは『創造性と行政とは本質的になじめない』としながらも、『現場に権限を委譲し住民へのサービスを充実、政策評価をしっかりと行うことで、サービスの方向性がずれないようにする。また、行政の業務をNPO団体など民間非営利組織と多次元化することで、行政の独占状態が緩和され相対化される。そこに潜在的な競争が生じ、寛容で創造的なサービスや政策の実現が可能となる。』と話された。

学生政策コンペの最優秀賞は六次産業化による活力と未来ある町づくりへの提言を行った中央大学細野ゼミが受賞した。

記

１　日　　時：平成24年10月27日（土）10:00～17:15
２　場　　所：篠山市民センター　多目的ホール、催事場1,2
３　テ ー マ：「地域の再生～創造的なまちづくりと農村・地方都市の可能性」
４　参加人数：学生／約250人（17大学21チーム）
（関西学院大学 長峯純一ゼミ、関西大学 政治学研究部、関西大学 橋本行史ゼミ、関西大学 岡本哲和ゼミ、神戸大学 篠山市空き家活用チーム、関西大学 永田尚三ゼミ、関西大学 社会安全学部政策研究会、神戸学院大学 南島和久ゼミ、大阪大学 大阪大学公共政策研究会、静岡文化芸術大学 片山泰輔ゼミ、長野県短期大学 野口暢子ゼミ、大東文化大学 齋藤博ゼミ、國學院大學 國學院大學公共政策研究会、中央大学 細野助博ゼミ、大阪国際大学 田中優ゼミ、名古屋学院大学 LiNKS、北九州市立大学 楢原真二ゼミ、東海大学 岡本三彦ゼミ、日本大学 中川雅之ゼミ、明治大学 塚原康弘ゼミ、慶應義塾大学 増山幹高研究会）
一般傍聴者／約50人
６　内　　容：
(1)プログラム（篠山市民センター　多目的ホール、催事場1,2）
○午前の部
○午後の部
○記念講演　　静岡文化芸術大学　片山　泰輔「創造性を活かす環境と公共政策」
○審査委員会
○全体講評
(2)交流会・表彰式（ユニトピアささやま）
７　主　　催：公共政策フォーラム2012 in 篠山実行委員会
８　事 務 局：日本公共政策学会、篠山市政策部企画課

(2)発表タイムテーブル

10:00～11:50　学生政策コンペティション（午前の部）　15分発表＋質疑５分（入替５分）

開始時間	終了時間	篠山市民センター多目的ホール	篠山市民センター催事場１・２
10:00	10:10	開　会	開　会
10:10	10:30	関西学院大学　長峯純一ゼミ	神戸大学　篠山空き家活用チーム
10:35	10:55	関西大学　政治学研究部	関西大学　永田尚三ゼミ
11:00	11:20	関西大学　橋本行史ゼミ	関西大学　社会安全学部政策研究会
11:25	11:45	関西大学　岡本哲和ゼミ	神戸学院大学　南島和久ゼミ

11:45～12:45　昼食・日本公共政策学会理事会（篠山市民センター研修室５）

12:45～15:40　学生政策コンペティション（午後の部）

開始時間	終了時間	篠山市民センター多目的ホール	篠山市民センター催事場１・２
12:45	13:05	大阪大学　大阪大学公共政策研究会	大阪国際大学　田中　優ゼミ
13:10	13:30	静岡文化芸術大学　片山泰輔ゼミ	名古屋学院大学　LiNKS
13:35	13:55	長野県短期大学　野口暢子ゼミ	北九州大学　楢原真二ゼミ
14:00	14:20	大東文化大学　齋藤　博ゼミ	東海大学　岡本三彦ゼミ
14:20	14:30	休　憩	休　憩
14:30	14:50	國學院大學　國學院大學公共政策研究会	日本大学　中川雅之ゼミ
14:55	15:15		明治大学　塚原康弘ゼミ
15:20	15:40	中央大学　細野助博ゼミ	慶応義塾大学　増山幹高研究会

(3)審査結果

日本公共政策学会会長賞（最優秀賞）

中央大学　細野助博ゼミ ……「都会に負けない」魅力づくり

篠山市長賞

大東文化大学　齋藤博ゼミ ……「シビック」が溢れる地域社会

兵庫県丹波県民局長賞

北九州市立大学　楢原真二ゼミ …… 都市部周辺・混在型農村地域の再生

篠山市議会議長賞

大阪大学　大阪大学公共政策研究会 …… 21世紀日本における地域再生の展望

篠山市教育長賞

名古屋学院大学　LiNKS …… コンテンツツーリズムによる地域活性化

(4) 記念講演

創造性を活かす環境と公共政策

静岡文化芸術大学文化政策学部教授

片山　泰輔

1. はじめに

創造都市、創造的産業、創造的階級

みなさんこんにちわ。ご紹介いただきました静岡文化芸術大学の片山です。朝から政策コンペ、本当にお疲れさまでした。記念講演ということですけど、リラックスして気楽に聴いていただければと思います。

今回の政策コンペのテーマが「創造的な町づくり」、そしてこのフォーラム全体の名前が「創造農村フォーラム」ということで、政策コンペに取り組む中で「創造」「町づくり」というキーワードで検索して、「創造都市」という言葉に巡り会った方は多いと思います。この言葉は今、日本だけでなく世界的に注目されている一つの重要なキーワードです。日本の代表都市だと金沢市のように金沢21世紀美術館を作り、観光客がいっぱい来ることで都市が発展してる姿であったり、横浜市のように赤煉瓦倉庫などの建物を文化施設にリノベーションして活性化を図っていたりと、そんなところが目に映ると思います。イギリスの都市コンサルタントにチャールズ・ランドリーという人がいます。ヨーロッパを中心とした主な工業都市が産業構造の変換の中で衰退をしていく。その際に、都市を再生していく色々なやり方がありますが、文化・芸術などの創造性に着目して都市再生を図っていく。それで彼に紹介されたり、あるいは彼自身がコンサルタントとしてアドバイスしたりということで再生させる。それが世界的にも注目されて、2004年にクリエイティブシティという都市のネットワークを、世界遺産で知られるユネスコが主催するというような仕組みができました。そして関連する研究として、リチャード・フロリダは、創造性を発揮して発展している都市にどういう特徴があるかということを研究していく中で、３つのＴ、「Technology（技術）」「Talent（産業）」「Tolerance（寛容性）」が揃っている都市が創造的な活動で今発展していると言っています。

日本では、明日のシンポジウムの登壇者でもあり日本の創造都市研究の第一人者・佐々木先生も書籍を書かれていて、みなさんもリサーチの中で手にされたと思うんですが、佐々木先生が創造都市とは「人間の創造活動の自由な発揮に基づいて文化と産業における創造性に富み、同時に脱大量生産の革新的で柔軟な都市経済システムを備える都市」と提唱されています。で、東京、ニューヨーク、ロンドンといったグローバルシティに対するアンチテーゼであるかは別として、重要なことは人間の創造性、それが自由に発揮されることで、文化イベント・文化施設でみんなが楽しめばいいということではなく、産業活動として持続的な都市の発展をもたらしていく。単にお金と時間がある人が文化を楽しむ・話し合うという、80年代に流行った「ゆとりと豊かさ」とは少し異なるものです。持続性が重要。つまり文化を単に消費して楽しむだけではなく、文化・芸術といった創造性というものが産業と結びついて、都市持続的発展をもたらした、という点が創造都市の注目されているところだと思います。巨大な市場によって発展していくことを20世紀に我々は経験してきましたが、そういうモデルではなく、それぞれの都市がそれぞれの持っている固有の文化を活かし、オリジナリティと非常に多様性のある発展モデルを考える。そういう流れになっている。ということで今日は、「創造性」というキーワードについて、それを町づくり、あるいは公共政策としてどういうふうに

考えていくか、少し私が考えることをお話ししたいと思います。

2. 創造性とは

・科学と芸術

レジュメにも書きましたが、人間の創造性から発揮される領域というのは大きく分けて科学（サイエンス）／芸術（アート）に整理することができると思います。サイエンスの面における創造性は自然科学に由来する社会科学なども含むものです。いわゆる広域科学的な考え方に基づく新しい視点ですね。最近ノーベル賞の発表などいろいろありましたけど、医学、生理学、化学、物理学、経済学もあります。社会の仕組みに関する新しい発見も重要な科学である。これが公共政策、町づくりの中で大事な視点となってくるわけです。

それとは違うタイプの創造性に芸術的な創造性というものがあります。音楽・美術・文学など科学的な観点における創造とは異なる、美学的観点の創造性と言っていいかもしれません。「かっこいい」「美しい」「楽しい」「素敵」など感性に働きかける創造性が人間が生み出す創造性としてあるわけです。これは人類が始まった時代からあるもので、生活と宗教と密接に絡んでいたんですが、近代社会が発展していく中、20世紀はどちらかというとサイエンスの発展により我々の豊かな生活が実現していたという側面が大きかったと思います。新たな発見により技術が進歩し、産業が発展し、我々の豊かさが享受できるようになってきたという側面が大きかった。ただ今日われわれの経済社会を見渡したとき、サイエンス・技術だけが経済の発展を牽引しているかというと、そうではないことに気づくんですね。つまりサイエンスの優れた技術が安くて性能のいい優れた製品を作るというのはあるんですが、物を作るということだけがどんどん海外へ移転していくというところが日本では顕著になっています。そういう時に付加価値が得られる商品・サービスとは何かと考えると美的センスの優れたもの、デザインの優れたものに多くの価値付け・評価がなされている。かっこいい、美しいアパレルなどはイタリアやフランスなどの先進国で高い技術で作られている。自動車も安くて高性能、安全な車だといつまで日本で製造できるか分かりませんが、かっこいい、スタイルのいい、デザイン性の優れた車はやはりまだまだ日本でこれからも頑張っていける領域になっていくのではと思います。そういった意味で実は21世紀は産業活動においても、サイエンスの発展に基づくクリエイティブな創造物という観点だけではなくて、アーティスティックな観点での創造物が経済の面でも重要になってくる。ですから80年代に物の豊かさを実現したから余暇として文化を消費しようとした時代とは大きく変わっていて、芸術などの文化的な側面が経済と密接に絡むようになっているといったところが現在非常に注目されている点だと思います。美味しいということも重要です。食を一つの文化として消費するのも大事なことです。これは科学の進歩だけでは実現できないことで、美的センス、文化的センスがあり初めて魅力的な産業が生み出せるし、町づくりもかつてはびしっとした道路を造って下水道を整備して…というように工学的な技術を駆使して都市計画、良い町を作ったんですが、今は美しい町を作らなければいけないということですね。篠山もお城の周囲の町を綺麗にすることに力を入れています。美しくて魅力的な町を作るというのはサイエンスのクリエイティビティだけではなくアーティスティック、文化的なクリエイティビティがあって初めてデザインできます。そういう重要性があるということを前提としてお話ししておきます。ではそういう

人間のクリエイティビティ、これはサイエンスにおいても同じなんですが、創造性というものがどういう環境で発揮されるのか、そこで重要になってくるのが「多様性」というキーワードです。

創造性と多様性

時間軸と空間軸、そして歴史的蓄積と多文化交流という話なんですが、優れた科学者・優れた芸術家は確かに個性的で、オリジナリティあるものを生み出しているんですが、そういった人々は例えば無人島に一人で籠って凄いものを作り出せるかというと実はそうではないんですね。多くのアーティストでも、いろんな人の作品をまねること、見聞きすることから刺激を受けオリジナルを作り上げていくということが一般的に知られています。みなさんもこれから卒業論文に取り組まれますが、学術論文を書く時もそうです。いきなりオリジナリティのある論文を書く時に自分の思いついた言葉を書いて自分のオリジナルですというのは通用しないと思います。過去にどこまで誰がどうやって明らかにしたのか、蓄積があってはじめてフロンティアが分かる。そこで人がやっていないことを探す中でオリジナルは生まれてくるわけです。クリエイティブシティは古い建物・歴史的な遺産を重視している事例に出会うということをお話ししたんですが、これは重要な繋がりがあるんですね。古い建物や古くからの伝統というものは、過去のいろんな伝統がそこに蓄積してあるんです。古いけど残っているということはそれなりに色々と集約しているということですから、そこから創造的刺激を受ける人がアーティスト、プランナー、政治家もそうかもしれません。そういう意味で古いものを壊すのではなく活かして使っていくというところに新しいものが生まれてきやすいんです。つまり過去からの蓄積というのは時間軸で、多様な人間の創造活動、行為が蓄積されている。過去のデータベースをぱっと手に入れられるのはこうした歴史的遺産、産業遺産です。

それからもう一つは空間軸での多様性です。自分の地域や国での過去の伝統が時間軸で言うところの多様性であるとすれば、空間軸の多様性とは他の地域や異分野の営みを知ることです。自分と他者の違いを意識し、そこから何か新しいものを生み出していくということが出てくるわけですね。多文化との交流が創造的なものを生み出すのにとても重要なんです。日本の文化政策の中では、なかなか創造的なものを生み出す政策というのは上手くやれなかったというネガティブな評価があるんですがその中で高度成長期に国がやってきたこととして芸術家の在外研修があります。外国の大学を出てプロとして活躍し始めた芸術家などを外国で研修させる。これは日本の教育機関にないからというだけでなく、違う世界を体験することでクリエイティブな発想が湧いてくるという側面が非常に大きいんだと思います。この多様性をいかに担保するか、これが大きな公共政策の課題と言っていいと思います。

創造性は嫌われ者

クリエイティブなものが生み出す成果によって私たちは精神的にも都市的にも豊かな生活を享受することが最終的にはできるのかもしれませんが、そのプロセスにおいて必ずしもハッピーな状況だけではないんです。私が研究している芸術の領域でも優れた芸術が多くの人を楽しませたりという状況があるんですが、その創造過程で生み出される様々な実験的芸術は必ずしもそうではないんです。現代音楽にしても、これは音楽なのか雑音なのかという議論もありますし、現代美術だってこれはアートなの？というものもいっぱいあります。文学だってそうです。社会に対して挑戦的なメッセージを発して人を非常に傷つけたり怒らせたりする

ようなものもあります。兵庫県には来月オープンの横尾忠則さんの美術館があります。横尾さんの作品はいろいろとチャレンジしたものもあります。かつて世田谷美術館での展覧会が企画された時、「冒険王」という名の展覧会ですが、世田谷区の子どもたちを学校の行事として連れて行くという企画が学芸員と教師とで進んでいたんですが、それに教育委員会がストップをかけたんですね。子どもたちには刺激が強すぎるという理由です。世田谷区は相当リベラルな土地柄であったんですが教育委員会としては当時それを認めなかった。そういう意味では兵庫県は寛容性のある土地柄かもしれませんが、なかなか難しい部分があります。芸術面だけでなくサイエンス面でもそうです。天動説が主流だった時代に、地球が動いていると言って大変なことになった人々がいます。サイエンスにしてもアートにしても世の中の常識や秩序と違うことを言っていくのがクリエイティブな人々の仕事ですから、人々にそれが歓迎されるとは限らない。不安をかき立てたり反発を受けたりということが起こるわけですね。だけどそれをある意味許容し、寛容な心を持ってやらせていかないと、我々にとって役に立つクリエイティブなものというのは生み出されない。そこで「失敗の自由」ですね。実験的なこと全てに価値があるのではないです。失敗作もいっぱいあるんです。そのなかで非常に優れたものが残っていくというプロセス。これは科学も芸術も同じですけど、その失敗作・成功作でも人々が慣れていないものというのは人々にとって必ずしも感謝されるものではない可能性もあるんですが、それをいかに社会として担保していくか、それがないとクリエイティブなものというのは得ることができないということなんです。アメリカのメトロポリタンオペラの芸術監督を長年やっているジェームズ・レヴァインさんは公的助成によって一般芸術家が失敗する権利を得ることができ、これが創造することの拡大に繋がるのだという熱いメッセイージを発したことが私にはショックだったんですけども、失敗することを許容するということがクリエイティブなことを担保する。もう一つ例を挙げると、みなさんが研究するプロセスで「ポストイット」をたくさん使ったと思うんですが、あればアメリカの3Mという科学会社のヒット商品なんですけども、一般名詞としては付箋紙なんですがポストイットというのが一般名詞として使われるほどのものとなっています。あれは接着剤の研究をしている人たちが、中途半端しか付かない接着剤ができてしまったという失敗作なんですね。ただこれが何か使えないかということで、中途半端に付くという特徴が役に立つ商品を作った。有名な話なんですけども、3Mの昔の社長さんの話を聞いた時に感心したのが、あれだけ技術開発力のあるクリエイティブなものを生み出していく会社の研究開発の方針、非常に大事な企業戦略なんですけども、その中で成功目標を20～30%くらいに設定するというんですね。これがそれより高くても低くても駄目だと。あまり高いと技術者は冒険しなくなるんですね。結果が出そうになるものばかりをやるようになると。ちょうど今科研費の申請なんですけども、リスクを取らなければ結果の出てる研究で申請書を書くというのが一番いいんですね。後で淘汰されることを考えると。今度逆にするとモラルが低下すると。どうせ失敗でいいやとなる。適度なさじ加減がクリエイティブな人たちの能力を発揮させると聞いて非常に感心したんですけども、適度に失敗することが許容される環境がクリエイティブなものを生み出すことに繋がるんだということになるわけです。

3. 創造性と行政

行政とは本質的になじめない

町づくりの時にこれから新しい公共と言う時代でそういう政策の主体というのは必ずしも行政に限らないんですけど、今の日本の現状で言えば行政がかなり重要なキーパーソンであることは間違いないわけですね。創造性と行政ということで話を移していきたいんですが、最初のところにとても大切なことを書いてしまいましたが「行政とは本質的になじめない」。行政というのは法治国家においては法律があり、法律というのは我々が選挙で選んだ議員さんが決めたルールですから非常に重要なものです。法律があり、そのもとに議会では法律とは別に予算というものを決めるわけですね。そして決まった通りに行政の職員の人たちというのは仕事をしている。とうことで我々はいろんなところでいつもお役所仕事というものにイライラしたり「お役所は！」という批判が出たりするんですけど、ただ、よく考えれば法律どおり・規則どおりに仕事をするというのはそれなりにすごいことなんですね。途上国みたいに袖の下を出さないと動かない…というのはそれ以前の問題な訳ですから、規則どおり・法律どおりにきっちりやってくれるというのは価値があることなんです。ただ、法律や規則が適切であればその通りやってくれていいんですが、今の時代のように世の中の不確実・未知なものに挑戦していく時は、議会で決める法律や条例、予算等が必ずしも正しいとは限らないわけですね。ということで、一人一人の職員が自分の経験や知見を持って創意工夫をしていろんなものを生み出していくというのができればいいんですけども、なかなかそれができない組織なのが行政なんですね。そう説明してしまうと悲しくなってしまうんですけども、そこで思い出していただきたいのが10数年前から注目され、この学会でも取り上げられたと思いますが「新公共経営」。「New Public Management」という言葉の訳語として日本で広まりましたけども、そんな議論が日本でも90年代終わりからされたと思います。これはもとは1980年代にイギリスなどアングロサクソン系の国の行革の取り組み。非常に硬直化して肥大化した公共機能を民間企業の研修法とか市場メカニズム等の利用等によって効率化して、より良いものにしていこうという改革の動きがあったんです。この辺りの取り組みを総称して「新公共経営」「New Public Management」という言葉で総括できるわけなんですが、最近はそれを言う人が多くなくなってきたんですけども、実は新公共経営をする時にかなり大事な解決策があったんです。新公共経営について色々な説や書き方をしていますけども、共通していえる大きなポイントとしては権限の委譲と結果主義ということだと思います。組織をヒエラルキー型のピラミッドからフラットにして現場に権限を委譲し、現場の人たちが、本来の顧客である住民のためにサービスを意識してやっていこうという顧客主義をよりよくやっていくために、現場に権限を委譲しようという話だったんです。現場で顧客である住民と接する人が自由にやっていこうというのはいいんですが、それがとんでもない方向にいってしまう可能性も十分あり得るわけですからそれを統制するという意味で結果主義、政策評価をきっちりやりましょう。現場に裁量を与えて自由に試行錯誤させる代わりに、事後的に評価し、問題があれば改善していきましょう、というように変える議論があったんです。そんな中でいろんな行革があって、大学などもそのまっただ中にあって独立行政法人化されて自由な一つの法人としてそれなりの裁量を持って機能するけど、そのかわり事後評価をしっかりやりましょうということになっています。それから私が研究している文化などにも非常に多いんですけども公立のいろんな施設、自治体の施設、公の施設などに関しても指定管理者制度として民間企業やNPOなどに運営をゆだねて、そのかわり結果を評価していきましょうというような形の、現場に裁量を委ねて試行錯誤させるという形になるものが導入されたわけですね。一部はそれで成果を上げているわけですけども、なかなかそ

れも難しいんです。私の大学も静岡県が設置した公立大学で、事務局は室長以外は県からの出向者なんですね。だから役所そのものというような組織になります。静岡県は一応行革に関して先進県を自負していて色々取り組みをやっていてそれなりに頑張っている面もあると思うんですが、それでも我が大学の官僚的硬直性に関しては、なかなか大変です。若い職員の方で、こうしたらいいああしたらいいと個人的におっしゃる方はいるんですが、それを室長にはなかなか言えないんですね。室長に呼び出されて、室長にもいろんな話をするんですが、結局本人が自分的には分かってもそれを何か変えるためのアクションを起こすというのは踏み切れないんですね。これまで県庁内に入ってから規則に従って行動するということが染み付いてしまっていて、自由に色々と創意工夫して物事を変えていくというのはすぐにはいかないかなと思います。だからやっぱり職員の人たちは中期目標を立てたり、計画を作ったり、毎年評価をやる中でこの仕事は何のためにあるのかとかミッションを果たせたかどうか、日々仕事の中で意識するようになった職員は確実に増えては来ているんですね。若い人がそういうことに反応してきているので、その人たちが染まることのないようにこういう学会やイベントに元気づけられながら進歩しながら、10年20年と、その人たちが40歳くらいになると変わるかなと。「New Public Management」も定着するかなと。考えてみればサッチャー政策だって２、３年で成果が出た話ではなくて10年くらいでいろいろと反発もありながらそれこそメジャー政権が終わるくらいに色々と成果が出て来たという面もあるわけです。やっぱり「New Public Management」を導入しようとしましたけれど、１、２年で成果が出るものではなくて、何世代もかけて組織を変えていくのでそこは気長に、じっくりとやる必要があるのだと思います。今、20年もそんな組織に慣れてしまった課長さんにいきなり変えろと言ってもそれはなかなか酷なことで今の若い世代の人たちがそういうポストに就くまでの間にじっくりとやる。というところが大事なんじゃないかなと思います。ただ、そうすると気長な話になってしまいますので、現在の公共政策としてどうしたらいいのかということでまとめさせていただきます。

4. 創造的環境を生み出す公共政策　～多元性と寛容性～

分権化

多元性として非常に重要なのは分権化だと思います。ここにNPO等の民間非営利組織と書きましたけども何でも行政がやらなければならないとなると、どうしても寛容性の壁に突き当たって、20年経たないと課長の背中が変わらないとなるんですが、それをもう少し早く実現する方法としては、そもそも行政がやっていた仕事というのを多元化していく。NPOに委託していく。ということが重要なんですね。そうすることで行政の独占性というものが緩和されていく。行政が相対化されていく。新しい公共という議論のなかで目指されているのはそういう方向だと思うんですけど、行政だけが公共的なことを担うとなると、行政のほうで埒があかないとなると悲しい結果になってしまうんですが、行政だけでなくNPOがあるとなるとずいぶんと緩和されるわけです。行政のほうも自分たちが独占しているときは左団扇なんですけどもNPOがあると自分たちの仕事がなくなるんじゃないかと思うと、そこは変わる可能性があるんですね。これは指定管理者制度を導入してみて、割と区役所の外郭団体だった財団とか公社とかが潜在的な競争があると、自らを改革するというのが現実に起こってきているわけで、行政が多元化されて医療など色々やっているとなるとちょっと

危機感を感じて、イギリスの中の行革で競争入札制度というのがあって、これを本当に競争させちゃうのでこれはちょっと反発があったんですが、やっぱり潜在的な競争があるなということを認識すると人間変わってくるというのはあるんだと思います。多元化するというのは結構重要なところかなと思います。実際は創造都市の中でこういった取り組みを熱心にやっているところというのは見渡してみると結構民間主体が活躍しているんですね。金沢でも推進しているのは、最後は市長がすごく働きをしましたけども、経済界の方達と20年くらい研究会を重ねてきたというのもありますし、横浜市も最初の働きは行政ですけど、実際の担い手はNPOなど民の主体が中心というのがあります。ここ篠山もですね実は一般社団法人ノオト、民の動きが非常に強いです。国際的にもそれは証明されていまして例えばユネスコのクリエイティブシティーネットワークに申請する時も行政だけが手を挙げたのでは申請できないんですね。民を巻きこんだそういった主体が組織されないと、そして民の活動が確立されないと申請すらできない。といういうことになっているんですね。なので主幹の多元化というのがクリエイティブなものを許容する、寛容性を担保するというのは非常に大事です。

アメリカの面白い例だと思ったのがロバート・メイプルソープというフォトアーティストで、日本でもそれが猥褻なのか芸術なのかという裁判もあったりしたのでご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、その作品はテーマとして同性愛を扱っていて、本人もエイズで亡くなったりしてるんですけれども、そういうテーマの作品に対して国が支援をしていたということで議会で大論争が起こったという。で、公的支援を受けていたあるギャラリーがそういった動きを嫌ってメイプルソープの展覧会を自主的にキャンセルしたというのがあったんですけども、そういった時にサッと別の民間のギャラリーが手を挙げて、その展覧会を実現したと。公的支援を受けたギャラリーは議会からの攻撃に恐れをなして、降りちゃったんですけども、そうするとサッと別の企業が手を挙げてそういう展覧会も実現してしまうという、民間的な例なんですけども、誰にでも受け入れられるようなものではない、尖った、先端的なもの、そういうものを許容していくためには、主体が独占していると駄目なんですね。行政しかパイがないとなると難しいんですが、他にもいっぱい多面的な支援機関があるという状況が担保されればかなり多様なものが存在できるという面があるわけです。

交流やネットワーク

今日の政策コンペでも多くのゼミが交流の重要性を経験されていますけども、交流・ネットワークにも色々あるんですが、ここで触れておきたいのが「外から誉める」という効果についてです。交流やネットワークでですね、他の地域、他の分野と触れ合う中で自分たちのところでやっている創造的な試み。それは前例のないことをやっていますから不安定でリスクのあることでみんな心配なわけですね。そんな時に他の地域の人たちにそれを誉めてもらうということが非常に大事なことなんですね。私が昔民間の研究所にいまして、その親会社が都市銀行で、今は都銀もすごい競争にさらされていますけども、昔は大蔵省の護送船団方式の中で都銀と言えば役所よりも役所っぽい、暗い官僚的な組織だったわけです。金利も自由に決められない競争のない、役所的なところ。そこの人たちが私のいた研究所も管理部門を全部牛耳っていたんです。そんな中で我々が働きやすい人事制度を作ろうと色々と議論してたんですね。最初、銀行から来た人事部長はそれを抑えようと弾圧したんですけども、ある時NHKが嗅ぎ付けて先進的で面白い制度を導入するようだと取材に来て、とたんに人事部長は立場が変わってしまって、自分がその制度を弾圧していますとは言わな

いで、得意になって先端的な人事制度について語り始める広告塔になってしまった。役人的な育ち方をしてきた人というのは自分に自信があまりないので、誉められるとサポーターになるんですね。これは役所であってもいろんなところでもあることです。ですから前例がないことだと言って反対している人が多いところでは他の地域の人からやっていることが素晴らしいと誉めてもらう。そうすると「いや、その取り組みは全然素晴らしくないんです。けしからん。私が今それを辞めさせようと思っているんです。」という風に頑張れたらそれは立派なもので、多くの人は誉められるとむしろサポーターに回る人が多いんですね。それは非常に大事な部分で、笑い話みたいですけどかなり重要なポイントだと思います。誉められたことについては精神的に寛容な気持ちが広がるというところがあります。やってる本人も自分のやってることの不安さはありますから自信を持つということもありますし、交流によって地域でやっている色々な多様なものを知ることによってクリエイティブな刺激を受けて色々なものを生み出すことにも繋がるんですね。

クリエイティブなことをやろうという人は自らそういうところに飛び込んでいくので割と放っておいても大丈夫なんですけど、クリエイティブじゃない人たちですね。バリヤーがある人。そういう人に交流させるということが政策的な取り組みとしては結構重要かなというのを、我が浜松市の状況などを見ながらよく思っているところです。

最後、そろそろ時間がなくなりましたのでまとめますと、創造都市の試み、世界的にもユネスコがネットワークづくりをしています。で、それは定期的にそれぞれのクリエイティブシティーとして交流をして情報交換をしていく、というところが目指されているわけです。日本でも今、佐々木先生などの呼びかけによって創造都市のネットワークの組織が立ち上がっています。そしてまた明日、議論がある中で創造農村のネットワークもできてくるということだと思います。こういうネットワークができることでそういうことに取り組んでいる先進的な人たちだけじゃなくて、むしろそういうものを止めにかかかっているような人たちにも交流してもらって、お互いクリエティブなものを寛容性のある温かく見守るような環境ができてくれば、結構一人一人の人がいろんな能力を持っていて、いろんなアイディアがあるんですね。それがサイエンスの面、あるいはアーティスティックな面、あるいはその両方が合わさったものが生み出される都市、それが活かされる方向になっていくのではないかなという風に思っています。ということで時間になりましたので、これをもって私の話は終えさせていただきたいと思います。どうもご静聴ありがとうございました。

(5) 開催状況の写真

審査員打ち合わせ

日本公共政策学会会長　新川達郎氏

学生政策コンペの様子（多目的ホール）

学生政策コンペの様子（催事場）

静岡文化芸術大学　片山泰輔氏

片山氏による記念講演

新川会長による全体講評

ユニトピアささやまで行われた交流会・表彰式

篠山市長　酒井隆明氏

日本公共政策学会副会長・龍谷大学政策学部教授

篠山市教育長賞／名古屋学院大学　LiNKS

篠山市議会議長賞／大阪大学公共政策研究会

兵庫県丹波県民局長賞／北九州市立大学　楢原ゼミ

篠山市長賞／大東文化大学　齋藤ゼミ

日本公共政策学会会長賞／中央大学　細野ゼミ

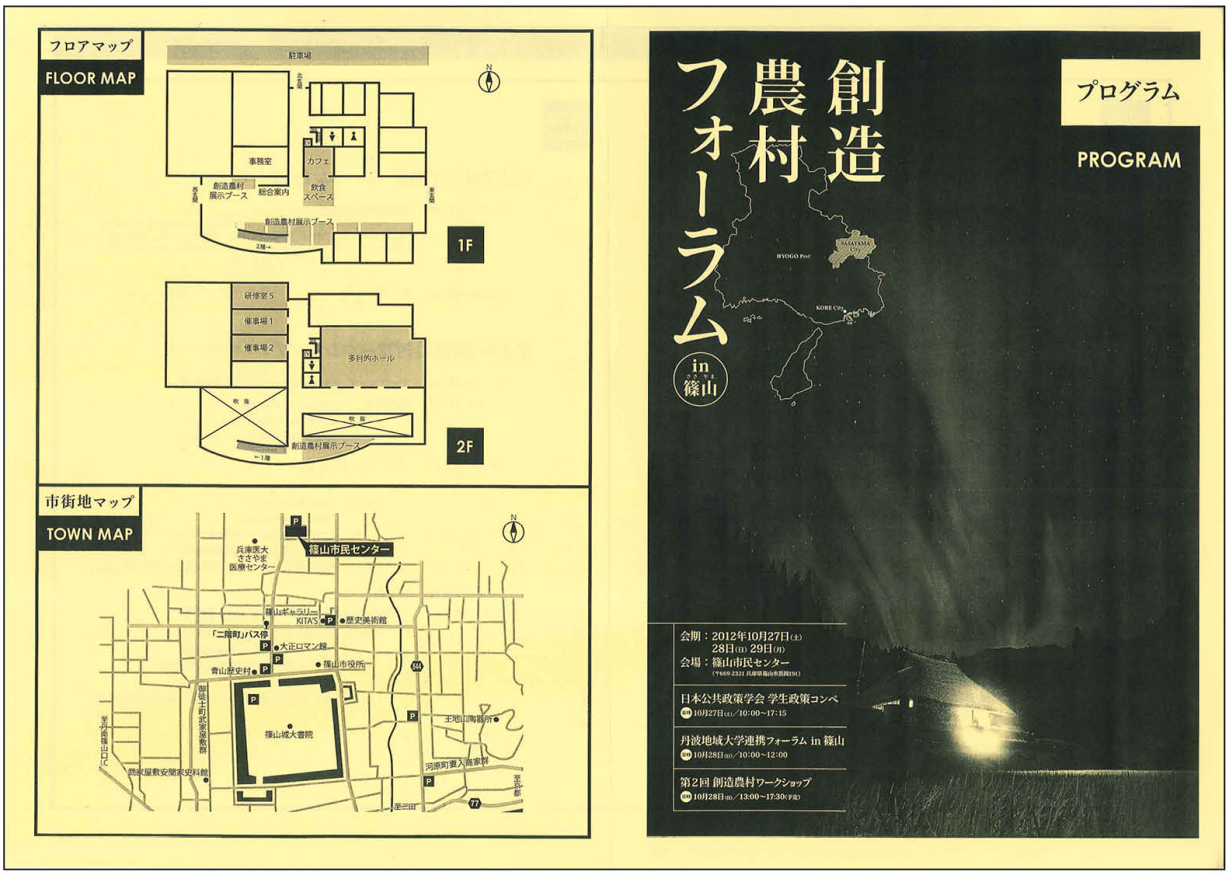
３．資料

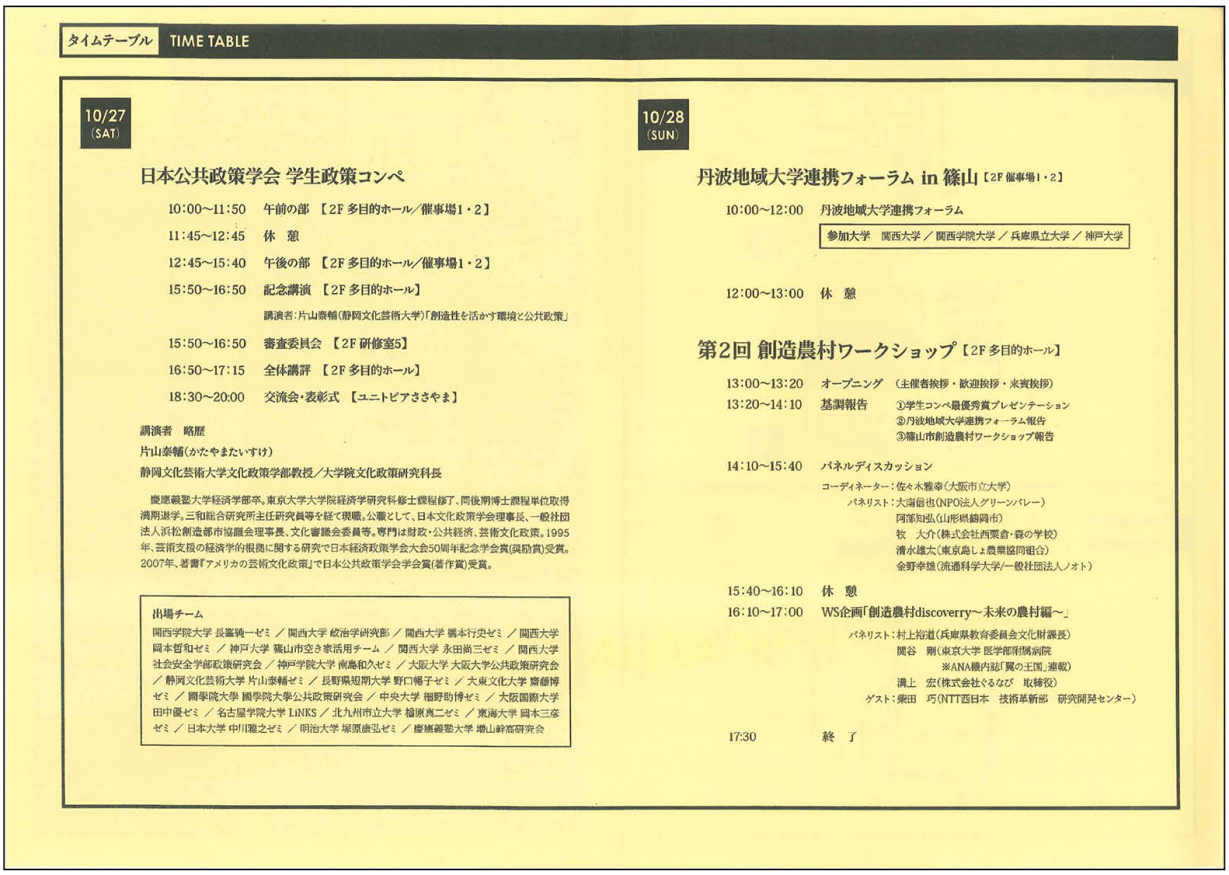
(1) 広報物

創造農村フォーラム　ポスター／Ａ１

創造農村フォーラム　パンフレット／Ａ４・４ページ

(2) プログラム





タイムテーブル TIME TABLE

10/27 (SAT)

日本公共政策学会 学生政策コンペ

10:00~11:50　午前の部 【2F 多目的ホール／催事場1・2】
11:45~12:45　休　憩
12:45~15:40　午後の部 【2F 多目的ホール／催事場1・2】
15:50~16:50　記念講演 【2F 多目的ホール】
講演者：片山泰輔(静岡文化芸術大学)「創造性を活かす環境と公共政策」
15:50~16:50　審査委員会 【2F 研修室5】
16:50~17:15　全体講評 【2F 多目的ホール】
18:30~20:00　交流会・表彰式 【ユニトピアささやま】

講演者　略歴
片山泰輔(かたやまたいすけ)
静岡文化芸術大学文化政策学部教授／大学院文化政策研究科長

慶應義塾大学経済学部卒。東京大学大学院経済学研究科修士課程修了、同後期博士課程単位取得満期退学。三和総合研究所主任研究員等を経て現職。公職として、日本文化政策学会理事長、一般社団法人浜松創造都市協議会理事長、文化審議会委員等。専門は財政・公共経済、芸術文化政策。1995年、芸術支援の経済学的根拠に関する研究で日本経済政策学会大会50周年記念学会賞(奨励賞)受賞。2007年、著書『アメリカの芸術文化政策』で日本公共政策学会学会賞(著作賞)受賞。

出場チーム
関西学院大学 長嶋鐵一ゼミ ／ 関西大学 政治学研究部 ／ 関西大学 橋本行史ゼミ ／ 関西大学 岡本哲和ゼミ ／ 神戸大学 篠山市空き家活用チーム ／ 関西大学 永田尚三ゼミ ／ 関西大学 社会安全学部政策研究会 ／ 神戸学院大学 南島和久ゼミ ／ 大阪大学 大阪大学公共政策研究会 ／ 静岡文化芸術大学 片山泰輔ゼミ ／ 長野県短期大学 野口暢子ゼミ ／ 大東文化大学 齋藤博ゼミ ／ 國學院大學 國學院大學公共政策研究会 ／ 中央大学 福野助博ゼミ ／ 大阪国際大学 田中優ゼミ ／ 名古屋学院大学 LiNKS ／ 北九州市立大学 福原真二ゼミ ／ 東海大学 岡本三彦ゼミ ／ 日本大学 中川雅之ゼミ ／ 明治大学 塚原康弘ゼミ ／ 慶應義塾大学 増山幹高研究会

10/28 (SUN)

丹波地域大学連携フォーラム in 篠山【2F 催事場1・2】

10:00~12:00　丹波地域大学連携フォーラム
参加大学　関西大学／関西学院大学／兵庫県立大学／神戸大学

12:00~13:00　休　憩

第2回 創造農村ワークショップ【2F 多目的ホール】

13:00~13:20　オープニング　(主催者挨拶・歓迎挨拶・来賓挨拶)
13:20~14:10　基調報告　①学生コンペ最優秀賞プレゼンテーション
②丹波地域大学連携フォーラム報告
③篠山市創造農村ワークショップ報告

14:10~15:40　パネルディスカッション
コーディネーター：佐々木雅幸(大阪市立大学)
パネリスト：大南信也(NPO法人グリーンバレー)
阿部知弘(山形県鶴岡市)
牧　大介(株式会社西粟倉・森の学校)
清水雄太(東京島しょ農業協同組合)
金野幸雄(流通科学大学/一般社団法人ノオト)

15:40~16:10　休　憩
16:10~17:00　WS企画「創造農村discoverry～未来の農村編～」
パネリスト：村上裕道(兵庫県教育委員会文化財課長)
関谷　剛(東京大学 医学部附属病院)
※ANA機内誌『翼の王国』連載)
濱上　宏(株式会社くるなび　取締役)
ゲスト：柴田　巧(NTT西日本　技術革新部　研究開発センター)

17:30　終　了

A４・４ページ

(3) 新聞記事

農村再生考える

27―29日、篠山でフォーラム

学生提案コンペも

篠山市は27―29の3日間、篠山市民センターで日本公共政策学会と共催で「公共政策フォーラム」を開く。同学会が全国各地の自治体と共同で開いているもので、地域再生を考える機会にしている。

テーマは「なつかしいみらい。」で、日本の農村・地方都市の魅力に新しい価値を生み出し、地域再生を考える。

27日午前10時―午後3時40分、同学会が「学生政策コンペ」を開く。全国の大学ゼミ22チームが地域再生案を発表し競う。

28日午前10時―正午、「丹波地域大学連携フォーラム」が開かれる。「学生たちとつくる地域のみらい」をテーマに関西大、関西学院大、兵庫県立大、神戸大の学生や地域住民が取り組みを発表する。

午後2時10分―3時40分、「創造農村への道標」をテーマに5人のパネリストによるパネルディスカッション「創造農村ワークショップ」が行われる。

期間中、同センターで篠山の食文化を紹介した「創造農村マルシェ」を開くほか、全国の地域に根ざした商品や取り組みを展示したPRブースが並ぶ。

入場無料。学生コンペとワークショップは、市企画課（079・552・5106）、フォーラムは、県民局まちづくり建築課（0795・73・3862）、マルシェや展示は、ノオト（079・552・7373）。

2012年10月21日　丹波新聞

農村再生策

学生が提案

27～29日、篠山

農村地域の課題や展望について考える催し「創造農村フォーラム」が27～29日、篠山市黒岡の篠山市民センターで開かれる。

同市などが主催。27日午前10時からは慶応義塾大や関西大など全国17大学の学生による「学生政策コンペ」がある。篠山

おくみや ☎0120-44-0038

28日午前10時には神戸大など丹波地域で地元と連携する学生の活動報告などがある。同日午後1時からは、過疎地域の活性化に取り組むNPO法人理事長などが参加するパネル討議が開かれ、地域の特性を生かした農村などの農村地域を再生するために必要な公共政策の提案などを行う。

また、26日～11月4日には関連イベントとして市内の飲食店が参加する「ササヤ・バル」も開催。無料で配布しているクーポンを提示すると、割引などが受けられる。

フォーラムは参加自由。市企画課☎079・552・5106

2012年10月24日　神戸新聞

産経　三田1　10版※　2012年(平成24年)10月23日

篠山で「創造農村」討論

27～29日　識者講演や学生発表

篠山市は日本公共政策学会と連携して「公共政策フォーラム2012in篠山（創造農村フォーラム）」（朝日新聞神戸総局など後援）を27～29日、同市内で開く。メーンテーマは「なつかしいみらい。」。丹波地域大学連携フォーラムや創造農村ワークショップと合同で開く。

丹波地域で活動する関西の大学生、まちづくりに取り組む人との交流、意見交換などがあり、一般の参加を呼びかけている。

同市は創造都市、創造農村の取り組みを進めている。今年度から、食、祭、古民家、クラフトなどをテーマにしたワークショップや、地域多様性、森林再生、動物共生がテーマのセミナーを開いている。

フォーラムでは、農村・地方都市で新しい価値を生み出す地域の資源を生かし、新たな課題に対応し、再生に向けた創造的なまちづくりを展開するためにとるべき公共政策を考える。

27日は午前10時から、篠山市民センターで「地域再生～創造的なまちづくりと農村・地方都市の可能性」をテーマに大学生22チームが発表。続いて静岡文化芸術大学の片山泰輔教授の記念講演「創造性を活かす環境と公共政策」がある。

28日午前10時から篠山市民センターで「丹波地域大学連携フォーラムin篠山」があり、関西大、関西学院大など4大学が「学生たちとつくる地域のみらい」をテーマに活動内容をパネルで紹介する。続く「創造農村ワークショップ」では「創造農村への道標」をテーマに討論する。

問い合わせはフォーラム事務局（079・552・5106）へ。

（土井敦夫）

2012年10月23日　朝日新聞

地域再生へ学生が提言

篠山で全国17大学の21グループ

実現性や独創性を競う

政策を提言する大学生＝篠山市民センター

全国の大学生が地域を再生させるためのアイデアを発表する「学生政策コンペ」が27日、篠山市黒岡の市民センターで開かれた。篠山市や日本公共政策学会でつくる実行委員会の主催。全国17大学21グループの学生が実現性や独創性などを競った。

同日開幕した「創造農村フォーラムin篠山」の一環。神戸大農学部のグループは、篠山市内に数多くある空き家を有効活用する方法をテーマに選んだ。空き家の持ち主は、地域の目を気にして先祖から引き継いだ家を手放さない場合があることから、高齢者が「将来は手放してほしい」などと書面で意思表示しておく仕組みを提案した。

また、中央大総合政策学部のグループは同市について、人口流出に伴う経済の衰退によってまちの魅力が失われ、さらに人口流出が進んでいると分析。歯止めを掛けるため、収益性が高い作物を栽培し、市内で加工、販売する仕組みを実現させることが不可欠と主張した。メンバーの山崎ももこさん(21)は「私たちの提言が採用されればうれしい」と話していた。

（井原尚基）

2012年10月28日　神戸新聞

「創造農村」フォーラム

篠山 21学生チーム発表

あすまで

農山漁村のあり方について話し合う「創造農村フォーラム」（毎日新聞神戸支局など後援）が27日、篠山市黒岡の市民センターなどで始まった。「なつかしいみらい」をメーンテーマに、地域資源を生かした地域活性化に取り組む市民や学生らが全国から参加し、さまざまなイベントが開かれる。29日まで。

この日は「地域再生と農村・地方都市の可能性」をテーマとした「日本公共政策学会学生政策コンペ」が開催。全国から21の学生チームが参加し、各地の取り組みや研究成果を発表した。最高賞の同学会会長賞に輝いたのは「都会に負けない魅力づくり」について発表した中央大の細野ゼミ。「丹波県民局長賞」には、北九州市立大の楢原ゼミが選ばれた。

28日は午後1時から、「創造農村への道標 懐かしい未来」と題した「創造農村ワークショップ」を実施。NPOや大学、行政などの関係者が農村の未来への展望や「創造農村」について語り合う。そのほか、大学と地域の連携について話し合うフォーラムなども予定されている。

【丸井康充】

良品廉価
古き老舗
創業60年
広瀬佛檀店
西宮市大浜寺町2－1
☎(0798)22－7734

「日本公共政策学会学生政策コンペ」で発表する学生ら
＝篠山市黒岡の市民センターで

2012年10月28日　毎日新聞

創造農村フォーラム in 篠山
日本公共政策学会　学生政策コンペ
報告書

平成25年1月発行

＜編集・発行＞
一般社団法人ノオト
〒669-2321 兵庫県篠山市黒岡191
篠山市民センター内
TEL. 079-552-7373
FAX. 079-552-4680

＜協　力＞
篠山市政策部企画課